平成 25 年度 （別紙２）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070300340		
法人名	医療法人医和基会		
事業所名	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ金刀比羅	ユニット名	４階
所在地	福岡県		
自己評価作成日	平成25年12月12日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　アーバン・マトリックス　福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年12月23日	評価結果確定日	平成26年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

おおきなものでなくてもいい。日々小さなぬくもりを感じてもらえるような存在でありたい。楽しいことばかりではないかもしれない。きつくて辛く、どうしようもない時もあるけれど「あんたがおるけ･･･」と思ってもれえるような存在でありたい。ご家族・ご友人・ご近所さん、日々の生活の中で色んな事にめぐり逢い気付き、その中で感じるぬくもりを大切に過ごしていきたい。私達も一緒に生活する中でたくさんの「ありがとう」をもらっている。そのぬくもりを胸に笑みある時を一緒に重ねて生きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	↓該当するものに○印	取り組みの成果
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	↓該当するものに○印	取り組みの成果
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,21）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、各所に掲示し意識を高め、おひとりおひとりのニーズに応えられるように努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや盆踊りなどの行事に出来るだけ参加するようにしている。又、地域ボランティアの方を招きｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑでの行事を計画することに力を入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にてお話させていただく機会がある。今後も事業所の行事などに参加して頂けるけるように努めていく必要あり。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ニヶ月に1度会議を開催している。行事の様子などをご家族や地域の方に報告している。色々と意見交換を行い、出された意見について実現できるよう検討している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加して頂き取り組みなどを理解してもらい、アドバイスをもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し定期的に勉強会を行っている。エレベーターを施錠していることについて、運営推進会議の中でご家族様からも意見を頂き、今後も入居者様の表情を見極めて散歩に行くなど「気づき」を大切にしていきたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に定期的に秒協会を行い職員への理解と意識付けを行っている。		

(株)アーバン・マトリックス福祉評価センター

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者虐待防止に関連した成年後見人制度についてパンフレット等を使用したり、会議の場で勉強したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に解りやすく説明し、契約を行うようにいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等で意見を頂く。又、ご家族様からの意見や苦情等は管理者・職員で速やかに改善するよう心がけており報告する場ももうけている。介護サービス相談員の受入れを月に1度行っている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自己申告書を配布し定期的にヒヤリングを行う。全体会議・ミーティングで意見・要望などさまざまな意見交換を行い業務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	得意な事が活かせるような環境がつくれるよう努力している。法人からは、永年勤続者へ報奨金の支給や資格手当等を支給するなどで配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ヒヤリング御仁個人を実施し本人の希望や能力が活かせるよう配慮している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全体会議及び勉強会の場を通して知識を深められるように取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量、特性を活かせてる役割を与え、職員のスキルアップに努めている。研修報告会や勉強会を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所から行事への招待を受け参加させて頂いたり、反対に当事業所に招待したりして交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	落ち着いた雰囲気の中で常時話が出来る環境を整え、安心して生活していただけるように努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ずご家族との担当者会議を開きご家族の気持ちや希望があればうかがいケアプランに反映させている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	じっくりとお話を聞き必要としている支援を見極め状況に応じてショートステイ・体験の利用も含め助言する。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、得意な面を発揮できる場をつくるよう努めている。人生の先輩として尊敬する事も多く「あんたがおるけ」「ありがとう」と言われるととても嬉しく思います。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時は必ず情報交換を行う。お手紙(こんぴら通信)を郵送し行事の案内・参加をお願いしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者の現在の状況を報告するため、電話をかけたり、手紙を郵送したりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り会話をしたり。気の合う方と話が出来るように座る位置を考えている。気の合わない方とは少し距離ををとり、且つ孤立しないように声かけをしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後おご家族の相談を受けたり、面会に行くなどしている。関連法人の紹介も行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	（12）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とゆっくり話せる場面を作り、信頼関係を築きながら希望や意向を伺いケアプランに反映する事で実現出来るよう心がけている		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に生活暦等を尋ねたり、ご本人さんとの会話の中で得た事を当事業所独自の様式にまとめスタッフ全員で情報を共有するようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人さんのペースを守りつつ、一緒に過ごす中で出来ることを把握し失敗に繋がってない支援を心がけている。		
28	（13）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントシートを活用しスタッフ間で意見交換を行うとともに、ご家族の意見・要望もうかがい、反映したうえでケアプランを作成している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録やスタッフノートに記入しし職員間の情報を共用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人お一人の状態に合わせてご家族の希望を聞いたうえでサービス内容を検討支援していく。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の情報収集をし、四季に合わせた行事に参加したり、コンサートや美術館・近隣へのドライブへ行く。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望を重視し、かかりつけ医と連携を図っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の診療所看護師の定期的な訪問により各入居者の状態報告を行っている。状態の変化があれば、看護師と連絡をとり相談や指示を仰いでいる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や医師・看護師・ショーシャルワーカーと連携し、情報交換に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係る指針」確立し事業所内での対応を充分に説明をさせて頂いている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しており、定期的に訓練・勉強会を実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に近隣施設・自治会・消防団等にご協力頂き非常災害時訓練を行っている。又、対策マニュアルを作成し事業所内で定期的な勉強会も行っている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーについてなどの勉強会で学んだ事を基本に、利用者の方に接しています。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	談話の中でご本人の希望や思いを聞いたり、分る事、分らない事、出来ることを見極めながらおひとりおひとりに合った声掛けや支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合った暮らし方が出来るように個人のペースに任せ自由に生活してもらっている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時・起床時はご本人の希望も聞きながら服を選んでいる。月に一回、訪問理美容を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせ食事準備や後片付けなど利用者と一緒に行っている。談話の中で季節料理の話をしながら役割や生きがいを感じてもらう。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月一回の給食会議にて利用者の声を届け、より良い食事が出来る様に努めている。又、水分チェック表を見ながら個人のバランスを考えて水分補給を行ったり、食事摂取量の少ない方には栄養補助食品を活用している。		

自己	外部	項　　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	おひとりおひとりの状態に合わせた口腔ケアの声掛けや介助を行い、毎日夜には義歯を預かり清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表と併合しおひとりおひとりの排泄リズムや排泄サインを把握しながら状態に合わせた声掛けで介助を行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活に水分補給を取り入れ好みの飲み物を適量飲用してもらっている。又、毎朝きな粉牛乳を提供している。毎日の生活リハビリとして、体操や散歩などを実施、適度な運動量の維持に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の立案は決めてあるが、その日の状態を見ながら時間帯や入浴場所はご本人の要望に合わせ気持ちよく入浴できるように配慮を行っている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態に応じ休息して頂いている。外気浴に当たる機会を設けたり家事等の参加を一緒に行い日中は活動的に過ごして頂き、夜眠れない方には不安感を軽減できる声掛けをして安心してもらえるよう努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おひとりおひとりの薬の説明書は薬と共に確認でき内容を把握し、管理を徹底している。常に薬局と主治医の連携も密に取れており症状の変化の早期発見に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦の中からおひとりおひとりの得意な事や出来る能力を把握し、日々の生活の中で役割として繋げている。又、外出や行事等に参加され、うるおいや楽しみに繋げている。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	おひとりおひとりの希望に添って出来る限り外出できる様努めている。又、ドライブや外食等、ご家族の方にも協力して頂いている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所で行っているが、小銭程度を居室に持たれている方もいる。買物に行った時は、ご本人から支払をして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人から花や荷物が届いた時は、御礼の電話や手紙を書かれている。手紙をご家族や友人に書かれた時は、スタッフと一緒にポストまで投函に行かれる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーやリビングに入居者の視界の入る位置に季節を感じる壁紙や誕生会、行事などの写真を入居者様と一緒に作成し展示している。トイレには消臭剤を置き常に清潔感を保ち、室内の温度設定などの調節に配慮を行っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファーを置きゆっくりテレビを視聴されたり、新聞を読まれたり、音楽を聴かれたり、他入居者様と楽しくコミュニケーションがとれるよう配慮を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みのある家具や長年馴染んだ身の回りの物を配置して安心して心地よく過ごせる環境作りを心がけている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物的環境や人的環境の把握をしっかり行いながらソファーやテーブル等の家具の配置を検討している。又、トイレには看板、居室の入口には表札や目印になる飾りを付けるなどおひとりおひとりの身体能力に合わせた対応、工夫を行っている。		